

平成 26 年度 乗馬等を通じた被災地支援（馬とのふれあい）事業

活動報告書

活動報告①陸前高田まきばっこフレンドリーホース

活動報告②こども禅サマー合宿

活動報告③十和田ポニーライダー合宿

活動報告④石巻プレーパーク in 中瀬公園

活動報告⑤日本一のおいらせ鮭まつり

事業実施方法の特徴

事業実施写真

活動検討会報告

まとめ

平成 27 年 1 月 22 日

十和田乗馬倶楽部

平成 26 年度 乗馬等を通じた被災地支援（馬とのふれあい）事業 活動報告①

事業名 陸前高田まきばっこフレンドリーホース（3年目）
実施日 平成 26 年 6 月 28 日（土）13:00~15:00
主催者 任意団体あゆっこ応援団
共催者 岩手県陸前高田市
実施場所 冒険遊び場「まきばっこ」（陸前高田市広田町 黒崎公民館向い）
実施内容 引き馬・エサやり・馬の写生・レザークラフト
参加者数 136 名（こども 108・大人 28）
スタッフ 16 名（有資格指導者 1 名・馬取扱者 9 名・ボランティア 6 名）
使用馬匹 6 頭
事業効果

本事業は今年で 3 回目となる継続的な事業として、当クラブ会員および陸前高田の主催者側にも定着している。そのため、お互い顔と名前を覚え、再会のよろこびを分かち合う光景も見られた。また、毎年くり返し行くことで、被災地の変化や復興状況なども確認できた。特に今回は学生の協力が多く集まり、ボランティア意識の向上を実感することができた。

写真ページ

<https://www.facebook.com/media/set/?set=a.788286621195064.1073741840.206623832694682&type=3>

動画ページ

<https://www.youtube.com/watch?v=hOiRfJ4MeRE>

事業終了後の波及効果

- ・3年連続して実施したことで、地域住民とボランティアとの交流も深まり、顔見知りのような関係を築くことができた。
- ・子どもたちも恒例行事として毎年1回会える日を楽しみにしている。
- ・ボランティア参加した会員が、被災状況や実施結果を参加していない会員にも伝えてくれて、次の参加を勧めてくれていた。

平成 26 年度 乗馬等を通じた被災地支援（馬とのふれあい）事業 活動報告②

事業名 こども禅サマー合宿

実施日 平成 26 年 7 月 29 日（火） 9:30~12:00

主催者 曹洞宗青森県宗務所

共催者 名川チェリリン村

実施場所 名川チェリリン村（青森県三戸郡南部町）

実施内容 引き馬・ふれあい・馬の写生・馬の勉強

参加者数 24 名（こども 18・大人 6）

スタッフ 4 名（有資格指導者 1 名・馬取扱者 2 名・ボランティア 1 名）

使用馬匹 2 頭

事業効果

青森県内の曹洞宗寺院を統括管理する行政機関と連携し実施。

夏休み時期に福島の子どもたちを青森県南部町「名川チェリリン村」へ招いて行う、「子ども禅サマー合宿」に乗馬体験プログラムを組み込む形で実施することができた。2泊3日の様々な自然体験メニューを体験している福島の子どもたちは疲れを感じさせることなく、乗馬体験やエサやり体験などを楽しんだ。

主催者からも、「青森県ならではの体験をさせてあげたいと思い、乗馬をプログラムに入れたかった。貴重な体験を提供できた」との喜びの声があがった。

事業終了後の波及効果

はじめての会場での実施で、会場を提供してくれた「名川チェリリン村」からも理解が得られ、今後の会場を活用した事業のきっかけができた。

平成 26 年度 乗馬等を通じた被災地支援（馬とのふれあい）事業 活動報告③

事業名 十和田ポニーライダー合宿

実施日 平成 26 年 8 月 8 日（金）14:00~16:00

主催者 NPO 法人みんな地球の子どもじゃん

共催者 福島県伊達市「神愛幼稚園」、pray for the EARTH

実施場所 十和田乗馬倶楽部

実施内容 引き馬・ふれあい・馬の勉強・厩務作業・ポニーライダー技能指導

参加者数 12 名（こども 6・大人 6）

スタッフ 7 名（有資格指導者 1 名・馬取扱者 5 名・ボランティア 1 名）

使用馬匹 5 頭

事業効果

震災による十和田市への避難者が中心となって追悼イベントを行う団体「pray for the EARTH」と、福島からの自主避難のサポート・福島の幼稚園などに食料支援を行う NPO 団体「みんな地球の子どもじゃん」との連携により企画された本事業は、現在もなお屋外での遊びが制限されている福島県伊達市の家族を招き、十和田市を中心としたサマーキャンプツアーのプログラムとして実施した。

クラブ施設を活用した厩務作業やポニーライダー技能指導を取り入れた、密度の濃い馬とのふれあいや馬を通じたスタッフとの交流は、参加者の感想や保護者の意見からも評価が高いことがわかり、また協力スタッフの学生自らがメニューの企画・立案をし、参加者の立場に合わせたプログラム提供ができた。

動画ページ

<https://www.youtube.com/watch?v=gSkCkoEtTsA>

事業終了後の波及効果

- ・参加者家族からの寄せ書きが届き、その後もクラブとの交流が続いている。
- ・平成 27 年 2 月に十和田市立三本木中学校において、福島の被災状況と同団体の支援活動（本事業も含む）を生徒達に語る場を共同で行うことが決まっている。

平成 26 年度 乗馬等を通じた被災地支援（馬とのふれあい）事業 活動報告④

事業名 石巻プレーパーク in 中瀬公園（2 年目）

実施日 平成 26 年 8 月 16 日（土）13:00~15:00・17 日（日）10:00~12:00

主催者 子どものための石巻市民会議

共催者 石巻市・石巻教育委員会・石巻市 PTA 連絡協議会

実施場所 宮城県石巻市中瀬公園（石ノ森萬画館奥）

実施内容 引き馬・ふれあい・馬の写生・レザークラフト

参加者数 120 名（こども 80・大人 40）

スタッフ 11 名（有資格指導者 1 名・馬取扱者 4 名・ボランティア 6 名）

使用馬匹 4 頭

事業効果

本事業は昨年に続き 2 回目の実施となる。主催者も事業内容を理解しているため、会場や宿泊地の手配など電話やメールだけでスムーズに進めることができた。

夏休みのお盆時期での開催および 2 日間とも雨天の中での実施となり、昨年よりは子どもの来場は少なかったが、会場に隣接する石ノ森萬画館からの観光客も多く、賑わいあるイベントとなった。陸前高田市同様、復興状況を見て回ることもでき、参加したボランティア学生にとっても良い社会勉強の機会となった。

動画ページ

<https://www.youtube.com/watch?v=cYW11KJl2hY>

事業終了後の波及効果

- ・宿泊をとまなう受入れ環境を作る主催者の苦労や、実情なども聞くことができ、今後はクラブに招致しての実施にも前向きに検討してくれている。
- ・次年度の開催についても、少しでも取り掛かりを早く、良いものをつくりたいと、実施に期待を寄せている。

平成 26 年度 乗馬等を通じた被災地支援（馬とのふれあい）事業 活動報告⑤

事業名 日本一のおいらせ鮭まつり

実施日 平成 26 年 11 月 15 日（土）12:00~15:30

主催者 おいらせ町・おいらせ町観光協会

共催者 おいらせ町・おいらせ鮭まつり実行委員会

実施場所 しもだサーモンパーク（青森県上北郡おいらせ町）

実施内容 引き馬・馬の写生・レザークラフト

参加者数 155 名（こども 85・大人 70）

スタッフ 17 名（有資格指導者 2 名・馬取扱者 7 名・ボランティア 8 名）

使用馬匹 7 頭

事業効果

十和田湖から広大な太平洋に流れる奥入瀬川を有するおいらせ町では、毎年、鮭が遡上してくる時期に合わせて、町最大のイベント「日本一のおいらせ鮭まつり」を開催している。

これまで十和田乗馬倶楽部ではおいらせ町での活動はほとんどなく、今年 7 月に町の商工観光課へ本事業の趣旨説明と計画を進め、打ち合わせや現地確認などを経て、今回の実施に至った。実際に馬での活動を見てもらい、馬事イベントの経験がない共催者への理解が強まり、今後の連携強化および新たなビジネスの機会となりうる手ごたえを感じる事ができた。

また、今回は北里大学の乗馬サークルとの連携も計画的に行い、多くのボランティア協力者を集めることができた。自分達の知識や技術を活かして、社会貢献や人を喜ばせるボランティア精神の意識強化にもつながったと思えた。

写真ページ

<https://www.facebook.com/media/set/?set=a.868093769881015.1073741845.206623832694682&type=3>

動画ページ <https://www.youtube.com/watch?v=Nxf-feoer8>

事業終了後の波及効果

・おいらせ町観光課に馬事イベント実施のノウハウを理解してもらうことができ、ぜひ引き続き地域でのふれあい活動を行って欲しいとの意見があがった。現在、平成 27 年 5 月の春まつりイベントへの参加要請を受け調整中。

・おいらせ町内の環境における馬事活動への理解も得られ、海岸や河川敷を活用した外乗等のプランニングもできる環境が整った。

事業実施方法の特徴

●安全対策の徹底

- ・主催者との事前現地打ち合わせによるイベント内容確認と実施環境づくりに努める
- ・馬事イベントにおける注意点をあらかじめ主催者に理解してもらう
- ・ヘルメット義務化を参加者に理解してもらうための騎乗前説明とサイドウォーカーの配置

●レザークラフト体験との併催

- ・引き馬体験以外のアトラクションを行うことで、イベントのボリュームが増え、参加するきっかけ作りとなっている
- ・参加者の滞在時間の拡張につながり、常に賑わいを持った状態を維持できるため、人ごみを活用した効率の良い集客サイクルが生まれる
- ・体験後の記念品、証拠品、思い出の品として後々まで参加者に残る

●馬の名刺カード作成と配布

- ・性別、年齢、性格などを記載し馬への関心、興味を高める
- ・参加者数の集計把握ができる
- ・体験後の記念品、証拠品、思い出の品として後々まで参加者に残る

●流鏝馬体験および流鏝馬衣装での実施

- ・クラブイベントの告知や宣伝につながる
- ・クラブの特色を生かした他ではできないメニューである
- ・目立つ衣装による集客や、通常よりも写真を多く撮られることによる PR の促進

●ボランティアの積極活用

- ・学生を中心としたボランティアの呼びかけを実施（社会経験の場の提供・保護者への子ども的人格形成につながる校外活動への活用アドバイス）
- ・現地訪問型の場合は、必ずその地域の情報や被災の状況を事前に把握してもらう機会を作る
- ・被災地域に訪問する際は、その実情を見て回る時間を設ける
- ・事前に打ち合わせや企画会議を行い、事業趣旨理解とボランティア意識の向上に努める
- ・クラブ会員・非会員に係わらず広く募集し、新たなネットワークづくりとその後のクラブ顧客化につながっている
- ・ボランティア活動証明書を発行していただいたことで、学校・教育団体の理解が得られ、連携強化につながった。今年の 2 月には市内中学校にて本事業の活動を発表する機会ができた。



乗馬等を通じた被災地支援（馬とのふれあい）事業 活動検討会の実施

事業の主催者・参加者・協力ボランティア・連携先候補等を対象に、今年度の活動を振り返り、実施内容の評価や次年度以降の活動方法についてのアンケート回収と検討会を行った。

実施日：平成 27 年 1 月 18 日（日）13：00～16：00

会 場：市民交流プラザ 多目的研修室1 （十和田市稲生町 18-33）

参加者：9 名（クラブスタッフ 3 名・イベント主催者 1 名・ボランティア協力者 2 名・イベント参加者 2 名・連携先候補 1 名）

アンケート回収：14 件（イベント主催者 4 名・ボランティア協力者 8 名・イベント参加者 1 名・連携先候補 1 名）

■議題：

- ・事業について説明
- ・今年度および過去の活動報告
- ・アンケート結果についての考察
- ・実施方法についての評価と検討
- ・次年度以降の改善および活動計画

■意見・検討内容：

- ① 訪問型と招致型における主催者の目的の違いを確認する。主催者との綿密な打ち合わせを行う。

訪問型…目的) 被災地を元気にしたい、被災地に住む人に提供したい

課題) 多くの人を集めたいが、スタッフの少なさや高齢化・財源の無さなどにより難しい

改善案) 本事業で、開催周知のための（チラシ印刷等の）費用を出せないか
馬事以外のイベント種類をふやして規模を大きくできないか

招致型…目的) 移住先・新たな生活環境を求めての試みとして

課題) 移住受入れの体制・環境づくり

改善案) 十和田市と連携した企画の実施

馬事以外の地域連携先と協力した内容（ツアー）づくり

- ② 被災地（主催者）の実状・現状・背景を深く理解することに努め、その環境に合わせた実施体制と役割分担をクラブ側・主催者側共に準備する。

クラブ側…実施係…引き馬・ふれあいなどの各メニュー提供を行う

記録係（カメラ・ビデオ）…事業効果をかいまみることができる記録を残す

調整係…イベントが円滑に進むよう事前調整と当日の仕切りを行う

カウンセラー係…参加者の保護者への対応（交流・話を聞くことが心のケアにつながる）

主催者側…コーディネーター…クラブ側ボランティアと地域住民との交流の機会をつくる

- ③ 今後はクラブスタッフや会員だけではなく、十和田市の学校や教育機関・サークルなどの組織と連携したボランティア実施体制で活動を行う。（本事業を通じた新たなネットワークの確立）それにより、ボランティア側でも馬に携わったことない方々への提供機会となり、より拡大した馬事普及へとつながる

- ④ 参加者に体験してもらったメニューのほかに、馬事振興のためのショー的なメニュー（ホースショーや流鏑馬など）の実施内容の増加に努める

- ⑤ 【イベント主催者の意見】事業費（招致用バス代）を負担いただいたことで、我々の力だけではなしえなかった活動を実現することができました。しかし、震災からの復興、さらなる発展のためにはまだまだ足りていないものが多くあることを日々実感しております。これからも被災地の復興のために微力ながら尽くしていきたい。支援がこれからも続くことを期待しています。

- ⑥ 【ボランティア協力者の意見】「被災地の為に何かをしたい」と考えてはいるが、個人ではできないことがなく、この事業への協力へ誘われたことはとても良いきっかけとなった。実際に現地の状況を見ることができ、その場に居るからこそ感じとれることがあった。現地の子どもの馬とのふれあいによる笑顔を見て、自分でもできることがあるんだという自信にもつながり、この貴重な経験は将来を担う若年者にぜひともして欲しいとも思った。そのためにもこの事業は今後も続いてほしいと思う。

- ⑦ 事業の効果を明確にするための手法や記録体制を構築する

（その後の利用者数などをカウントできるクーポン券などの配布・定量的なデータの取れる参加者へのアンケート調査・心理カウンセラー等の同行）

検討会において、上記のような内容を議論し、次年度のより効果的な事業実施方法の改善案と開催計画を早い段階で見出すことができた。

■ 添付資料

- ・ 検討会資料（パワーポイント）
- ・ アンケート回収結果



まとめ

災害発生後の状況においては、居・食・住の確保が最優先とされる一方、運動・スポーツが「娯楽」の一種として捉えられるために、それらの諸活動の復興が後回しにされてしまいがちになる。

ただ一方で、災害により生活環境が大きく変化した住民の健康維持という観点からいえば、運動・レクリエーション活動は重要な要素とも捉えることができる。また、被災者を含め精神的に疲弊している方々に対し、再び生きる活力・勇気・感動を与え、災害からの復旧・復興を促進させる要因とも成り得ると考える。

本事業にて実施する馬とのふれあい活動も、遊びを通じて心の中にある恐怖や様々な気持ちを表現し、心のストレスを軽減させ、子どもの成長を後押しする「非日常性の高いイベントや活動」であると捉え、今後も継続的な活動をしていきたいと考える。

また、震災後4年になる今、少しずつ復興している一方で、「被災者」と一括りにはできないそれぞれの状況や心情、抱えている困難は様々になり、震災から時間が経つにつれて、ますます「個別化」している現状をかかえた各地域・主催者の立場に合わせた企画を、丁寧にひとつひとつ作っていききたいと思う。